
届かぬ手紙

朝比奈 弥一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

届かぬ手紙

【Nコード】

N98270

【作者名】

朝比奈 弥一

【あらすじ】

高校を卒業してから三年が経ち、私は思い付いたかのようにお世話になった先生へ向けて手紙を書いた。今の自分のこと、あの時言えなかったことなどを、三年の時を経て、今私は全てを打ち明ける。

悲しみは繰り返す（前書き）

この小説は、私が先生に当てた手紙についての内容であり、手紙の文面と主人公である私を書いた構成になっています

悲しみは繰り返す

1

悲しみは繰り返す。頬を流れる涙を人差し指で拭う手の震えは、もはや自分では抑えることが出来ずにいた。決して声を出して泣いているつもりではなかったのだが、私の異変に気付いた母が急に部屋のドアをノックし、様子を伺いに来た。

「ねえ、智美。^{さとみ} 大丈夫？ 今何だか大きな音が聞こえたんだけど」

「ごめん、ちよつとイライラしてて、それで机ブっちゃったみたい」「そう、ならいいけど」

本当は全然そんな事ではない。自分が一番よく分かっているのに、誰に何を話したら良いのか全く分からなかった。

しばらくして、ようやく手の震えも治まり、私はまた机に向かい、先生への手紙の続きを書き始めた。また途中で私は壊れて仕舞うかも知れない。だけど、これだけは何としても先生に届けたいと思う感情が強く、それが私にそうさせているようだった。

いったい何時間ペンを握り、途中で投げ出した文面の続きを見ていたのか。もう辺りはすっかり暗くなっているのに、私はこの続きを一文字も書けていない。いや、正確には書いてはいた。しかし、書いては消しゴムで直し、結局自分の思いを文字として表せてはいない。自分自身の語彙力のなさを痛切に感じ、また机に八つ当たりしてしてしまいそうになったが、今回は何とか抑えることが出来た。机に広がった消しゴムのカスが自分のバラバラな考えを映し出しているみたい。私は机に広がった消しゴムのカスを両手でかき集め、一箇所にまとめた。山の形になり、一つになった彼らの気持ちはみんな同じなのだろう。私の思いもこんな風にまとまれば少しは楽なのに。そう思いながら、集中力の欠けた状態に嫌気が差し、私は今まで座っていた椅子から立ち上がり、重い足取りで自室出た。

決意の夜に

2

お久しぶりです。こんな突然の手紙でさぞ驚かれていることと思います。もう私も先生の元を離れ三年が経ちました。だけど私はあの頃と全く変わってなんていません。だから、私を見れば遠くからでもしっかりと分かります。今までの間に先生に話したいことが多く溜まってしまいました。なので、こうして手紙にして、今私が伝えたい事を全て伝えたいと思います。それに、直接私の口からお話もしたので、この手紙は私が自分の足で先生の元へ届けようと思います。

こんな事を書くときつと先生の事ですから、「いつまでも私を頼るな」などと説教されそうですね。でも、やっぱり私は先生にしか心の内を打ち明けられないのかもしれないね。それは高校時代から変わらないことです。でも、あの頃に比べれば、今は大分大人になりましたよ。ただあの頃が異常に子供だっただけかもしれません。が、今思えば私は先生に出会えて本当によかったと思っています。（これはお世辞ではなくです）

本題と言っては、荷が重いのですが、先生に一つ話さなければいけない事があります。実は先日、通っていた大学を中退しました。せっかく先生に推薦して頂いた大学でしたが、どうも最近になり自分のやりたいことが分からなくなり、それで???

でも勘違いなさらないで下さい。大学に入り、多くの友人に恵まれ、本当に楽しい毎日を過ごせました。私は本当に影響されやすい人間だと思います。今回の自分への疑問から中退まではその周りの影響が原因の一つです。それには私が大学に入学してから一番最初に親友と呼べるようになったSの話をしなければなりません。

Sについては少々長くなってしまっているので、大まかな出会いからということにさせて頂きます。もともとSとはたまたまクラスが同じで、隣に座っていたということなので、何処にあるような出会いと変わりありません。趣味も性格も似たような人間同士でしたので、親友と呼べるようになるまでに時間はかかりませんでした。ただ、一つだけ違っていたことは、Sの家族がもう崩壊寸前まで追い込まれ、S自身もそれを抱えながら生活をしていたと言うことでした。Sの家庭事情については、私もつい最近になって知らされたので、本当に驚きました。なんで自分に何も相談してくれなかったんだろうと思ひ悩み、最近も眠れぬ夜が続く時があります。Sには二つ上に兄がいたらしいですが、もうこの時期には家には居らず、連絡も一切なかったと聞きました。

家族崩壊の原因を作ったのはSの父親の借金だったと聞きました。元々は真面目で厳格な父親だったらしいですが、二年前くらいに起きた社内紛争に参加し、敗戦した結果、職を失い日雇いで働くようになり、いつしかストレス発散のためにギャンブルに溺れ果て、多額の借金を作ってしまったようです。ちょうどその時期にSの様子も段々と変わっていきました。借金によってSは父親から乱暴され、家にはもう居場所など存在せずに、上京して一人で暮らす友人宅を転々としつつ、何とか生活していたようです。私は実家暮らしです。で、SからのSOS信号は全く届くことはありませんでした。でも、もしあの時に私に相談してくれさえしていたなら、確実に私の家に招いていたと思います、本当に悔しいです。

Sの家族に更なる追い撃ちをかけたのは、今度はSの母親でした。母親は父親の借金を何とか返済しようとし、親戚一同に頭を下げて廻ったらしいですが、誰一人として工面してくれる者はおらず、また、連帯保証人の突然の失踪も重なり、Sはもう授業料も払えなくなり、そのまま私の前から姿を消しました。

それから私がSの事を知ったのは、Sが姿を消して一週間後のこと。朝刊に取り上げられた一家心中という記事に出ていたSの家族

の名前と、その経緯でした。新聞には父の社内紛争から借金までの理由が綴られていましたが、Sについては、ただ続柄、名前と無職と小さく書かれていただけでした。

でも、それから二週間して私の元にKという人物から一通の手紙が届きました。そこには、KはSの親しい友人で私にSから伝えた事があると書かれていました。でも、本文はそれだけで、Kの事もSに関すること何もなく、それから何も連絡がありませんでした。これは誰かの悪戯なのかと思い、ついこの前まですっかり忘れていましたら、突然あのKと名乗る人物から「家に火を放ったのはSだ」という内容の手紙が送られて来ました。あの日の新聞から借金に溺れた父親の犯行が有力だと思っていましたし、経緯を見ればそれとなくそう思っていました。あの日の夜にSは家中に灯油を巻き、自ら火を着けて心中を図ったと書かれていました。正直、私は納得が出来ませんでした。今もそうです。でも、あの時のSの精神状態から見て、そう考えられなくもないとも言える気がします。一番の犠牲者はSであり、全てを道ずれに思い立った行動だと推測すれば、しっかりと筋も通ります。それよりも、Sの友人だということのKという人物が私は気になってなりません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9827o/>

届かぬ手紙

2010年11月19日22時09分発行